

# はしがき（取扱い案内）

以下のスライドは、2018年7月7日に名古屋地理学会2018年度研究報告会（中部大学名古屋キャンパス）で発表した近藤の同名の発表スライドをPDF化し、『外交青書2018』の地図に関する暫定評価を加筆したものです（Web掲載にあたって画像の画質を落とされています）。

本報告への学術的な見地に基づいたご批判、ご意見等は歓迎です。参考までに、発表当日は①白書の価値を高く見すぎ（絶対にミスしてはいけないレベルの資料ではない）ではないか、②地図の評価が杓子定規で一方的な批判になっているのではというご意見をいただきました。尊重すべき見解だと思います（①は結局主権者や国際社会が白書に何を求めるのかの問題で、社会的に「この程度大した問題じゃないよね」という人が大多数なら、それはそれで仕方ないでしょう。私個人はこのような白書とそれを出す政府を心底軽蔑しますし、学術の見地から「よりまし」な白書が出せる余地があると考え限り声を上げ続けますが。②は、私個人怒りに任せて一方的に断罪しがちなことは承知しています。また、地図（主題図）の内容評価に厳密性が欠けていたり主観的評価が入っていることも事実でしょう。言い訳めいて恐縮ですが、拙報告は現状への「問題提起」だと捉えていただければ幸いです）。どうか皆さま、ご笑覧の上、ご指導ご叱責頂戴できれば幸いです。

また、本スライドの二次的な利用は歓迎ですし、特段近藤への連絡も不要ですが、利用にあたっては出典を示してくださるよう、お願い申し上げます。

名古屋地理学会2018年度研究報告会  
2018年7月7日：中部大学名古屋キャンパス

政府刊行物の地図の誤りは  
いかにして無批判に受け継がれたか  
—『外交青書』『防衛白書』を事例に—

近藤暁夫(愛知大学)

# はじめに

- ◆ 本報告は、①近藤暁夫(2018a)「掲載地図の誤りにみる『防衛白書』の資料的価値と防衛省の地理的知識—『平成29年版 日本の防衛—防衛白書—』を中心に—」愛大史学26:75～112頁と②近藤暁夫(2018b)「掲載地図と本文の矛盾からみた日本国『外交青書』の資料的価値—『外交青書2017』を中心に—」文學論叢155:65～84頁の続編である。
- ◆ ①の拙稿は愛知大学のリポジトリで公開されている(②も公開予定)ので、あわせてご参照いただければ幸いです。

# 問題の所在

- ◆ 日本は近代国家で先進国だといわれる。つまり日本社会や日本政府は近代合理主義や科学的知見の尊重を行動規範の一つにしているはず。
- ◆ しかし、実際には「**非科学的**」としか形容しようがない地図(地図が科学的知見の精髓であることは繰り返すまでもない)が大量に社会にあふれている。
- ◆ 民間作成の地図の玉石混淆には目を瞑るにしても、政府が公的に出している地図のレベルの低さは近代国家の構成員として許容しがたい。

# たとえば『防衛白書』(2017年版)

The image shows a screenshot of a web browser displaying the Japanese Ministry of Defense's website for the 2017 White Paper on Defense. The browser's address bar shows the URL: [http://www.mod.go.jp/j/publication/wp/wp2017/w2017\\_00.html](http://www.mod.go.jp/j/publication/wp/wp2017/w2017_00.html). The page features a navigation menu on the left and a large graphic on the right.

**Navigation Menu (Left):**

- 平成29年版 防衛白書
- Contents
  - > 本文
  - > コラム
  - > 図表
  - > 写真
  - > 資料編
  - > 索引語検索
- ▲ 使用上の注意 >>
- PDFはこちら >>
- 🔍 年度・検索画面へ >>
- 防衛省・自衛隊のホームへ戻る
- 防衛省・自衛隊  
MINISTRY OF DEFENSE

**Main Content Area (Right):**

- 平成29年版
- 防衛白書
- 日本の防衛
- DEFENSE OF JAPAN 2017

The graphic on the right is a collage of images related to the Japanese Self-Defense Forces and their interactions with the public. It includes: a group of naval officers in white uniforms; a man in a military uniform smiling with a young child; a female member of the Maritime Self-Defense Force in a blue uniform; a young girl in a school uniform; a soldier in a green uniform; and a group of people, including a woman in a purple jacket, smiling.





※竹島・尖閣ともに実際と100km程位置が違う

どこを防衛する気なんだろう・・・？



# 南スーダン派遣施設隊の活動

## 施設活動について 一定の区切りをつけ活動終了へ

自衛隊は、この5年余りの間、首都ジュバから各地へと通ずる幹線道路の補修など、これまでのわが国のPKO活動の中で、過去最大規模の実績を積み重ね、自衛隊が担当するジュバでの施設活動は一定の区切りがつかしました。約5年4か月で延べ3,854名（第1次～第11次要員）を派遣しました。

派遣期間 カンボジアPKOの約5倍    延べ派遣人数 東ティモールPKOの約1.7倍

🔍 参照  
P.406

ジュベ川取水点の通称道補修 (16 (平成28) 年3月～同年4月)



UNハウス地区のメインゲート道路補修 (16 (同28) 年4月～同年10月)



ジュバ～ゴダ間の道路補修 (17 (同29) 年2月～同年3月)



駐外付随警備部隊 (16 (同28) 年10月)



飯炊業務として行われたクレーンによるコンテナ移動 (17 (同29) 年4月)



到着直前に先立って行われた重機などの操作訓練教育を行う11次隊要員 (17 (同29) 年4月)



隊旗奉還式において副団長兼大団長に隊旗を返還する南スーダン派遣施設隊長 (17 (同29) 年5月)

## UNMISS司令部への 要員派遣は継続

施設部隊の活動は終了しましたが、UNMISS司令部への要員派遣は継続するとともに、今後とも、政治プロセスの進展への支援や、食料援助を含む人道支援といった様々な形の支援を継続・拡充していくことで、新たな段階を迎えつつある南スーダンの国造りに関して積極的に貢献していきます。



社団軍と訓練を行う司令部要員 (17 (平成29) 年4月)



UNMISS司令部において日本隊要員に関して打ち合わせを行う司令部要員 (詳細) (17 (同29) 年3月)

南スーダンがスーダンに併合されている

## UNMISS司令部への 要員派遣は継続

施設部隊の活動は終了しましたが、UNMISS司令部への要員派遣は継続するとともに、今後とも、政治プロセスの進展への支援や、食料援助を含む人道支援といった様々な形の支援を継続・拡充していくことで、新たな段階を迎えつつある南スーダンの国造りにおいて積極的に貢献していきます。

その国、地図に載ってないけど・・・

# たとえば『外交青書』（2017年版）

The screenshot shows the official website of the Ministry of Foreign Affairs of Japan. The page is titled "外交青書2017 (HTML)" and features a navigation menu with options like "目次" (Table of Contents), "資料編目次" (Table of Contents for Materials), "コラム目次" (Table of Contents for Columns), "図表目次" (Table of Contents for Charts), and "写真目次" (Table of Contents for Photos). On the left, there is a cover image of the "外交青書 2017" (Blue Book 2017) with a world map background. On the right, there is a list of contents for the 2017 edition, including the main text and a materials section.

外務省  
Ministry of Foreign Affairs of Japan

本文へ | 御意見・御感想 | サイトマップ | リンク集

English | Other Language

Google カスタム検索 検索 文字サイズ変更 小

外務省について | 会見・発表・広報 | **外交政策** | 国・地域 | 海外渡航・滞在 | 申請・手続き

トップページ > 外交政策 > 青書・白書・提言 > 外交青書 > 外交青書2017 (HTML)

外交青書・白書

外交青書2017 (HTML)

過去の外交青書

目次 | 資料編目次 | コラム目次 | 図表目次 | 写真目次

**外交青書**  
2017  
平成29年版(第60号)  
外務省

- 平成29年版外交青書（外交青書2017）の刊行に当たって
- 本書の構成と特徴
- 本文
  - 本編
    - 第1章 2016年の国際情勢と日本外交の展開
    - 第2章 地球儀を俯瞰する外交
    - 第3章 国益と世界全体の利益を増進する外交
    - 第4章 国民と共にある外交
  - 資料編
    - 日米両首脳の広島・ハワイにおけるステートメント全文
    - 国家安全保障戦略（概要）
    - 地方創生支援事業一覧
    - 国際社会及び日本の主な動き
    - 要人往来
    - 略語集及び略語索引

日本語版 (<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/bluebook/2017/html/index.html>)

英語版 (<http://www.mofa.go.jp/policy/other/bluebook/2017/html/index.html>)

道・安定化支援を決定し、避難民への食料・水・生活必要物資等の供与のほか、避難民の帰還・定着のための家屋の修復、職業訓練等の支援を実施した。

また、7月20日、イラクにおける深刻な人道危機に対処するため、ワシントンDC（米国）において、ケリー米国務長官主催により開催された「イラク支援のためのブレッジ会合」において、日本から武藤容治外務副大臣が首席代表として出席し、米国やドイツ等と共に共同議長を務めた。同会合において、日本は計1,000万米ドルの追加的な人道・安定化支援を発表するとともに、悪化するイラクの人道情勢を受け、2017年及び2018年においても2016年に実施した約1億米ドル規模の人道・安定化支援を維持する意向を表明した。

現在、イラクは油価の下落や戦費の拡大等により深刻な財政状況に直面しているが、テロとの闘いの最前線に立つイラクが財政危機に陥り不安定化することを避けるため、日本が議長国を務めた2016年5月のG7伊勢志摩サミットにおいて、G7全体として36億米ドルの財政支援が結集された。

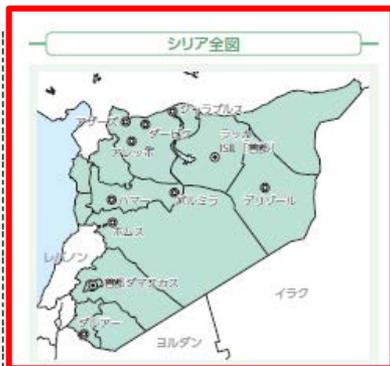
要人往来については、2月にマフディー石油相が訪日し、林幹雄経済産業大臣、武藤外務副大臣、日本企業関係者等と活発に意見交換を行い、経済関係を中心に両国の関係強化が図られた。

## 2 シリア

### (1) シリアの現状

2011年に始まったシリア危機は、2016年になっても沈静化する兆しを見せず、2016年末時点で、死者25万人以上、難民約480万人、国内避難民650万人が発生するなど、今世紀最悪の人道危機とも言われる状況が生じている。シリア国内では、シリア政府軍、いわゆる継続的な反体制派、ISILやヌスラ戦線等のイスラム過激派勢力及びクルド勢力による四つ巴の衝突が継続している。

こうした中、ロシアの空爆等による支援を受

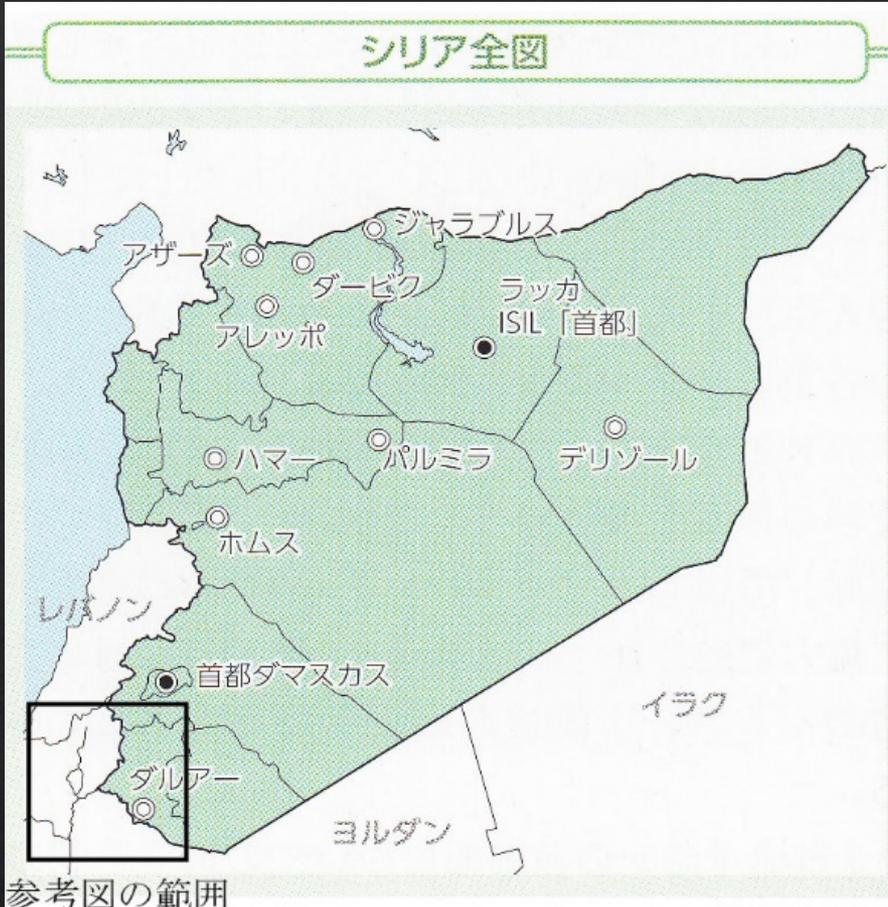


「シリア全図」という地図が載っているが…

けているシリア政府軍が、シリア危機の初期から反体制派の拠点となっていた北部の最大都市アレッポに対する攻勢を強め、12月15日にはアレッポのほぼ全域を制圧した。一方で、シリア全土における支配を軍事的に回復するにはほど遠く、12月11日にはISILにパルミラを再占拠されるなど、不安定な情勢が続いている。

2016年中には何度か停戦の実施が試みられた。2月及び9月に米国・ロシア間で、敵対行為の停止に関する合意が成立し、一時的に戦闘が沈静化した。2月及び9月に米国・ロシア間で、敵対行為の停止に関する合意が成立し、一時的に戦闘が沈静化した。また、12月30日にロシア及びトルコが仲介した停戦合意が発効したが、この停戦が紛争当事者に遵守されるか、その後の政治プロセスにつなげていくことができるかについては予断を許さない。

ISILとの闘いについては、米国等によるシリア領域内のISIL等に対する空爆が継続しているほか、イラクにおけるモースル解放作戦が進行している。また、8月から、トルコ軍が自由シリア軍と共にシリア北部に進行し、11月からシリアのクルド人民兵部隊であるクルド人民防衛隊（YPG）を主体とするシリア民主軍が、ISILが首都と称するシリア東部ラッカの奪還に向けた作戦を開始したことなどから、ISILは徐々に勢力を減退し、シリアにおいても支配地域を減少させつつあるが、情勢は依然混沌としている。



帝国書院『新詳高等地図帳』(2017) 31 頁 (部分)

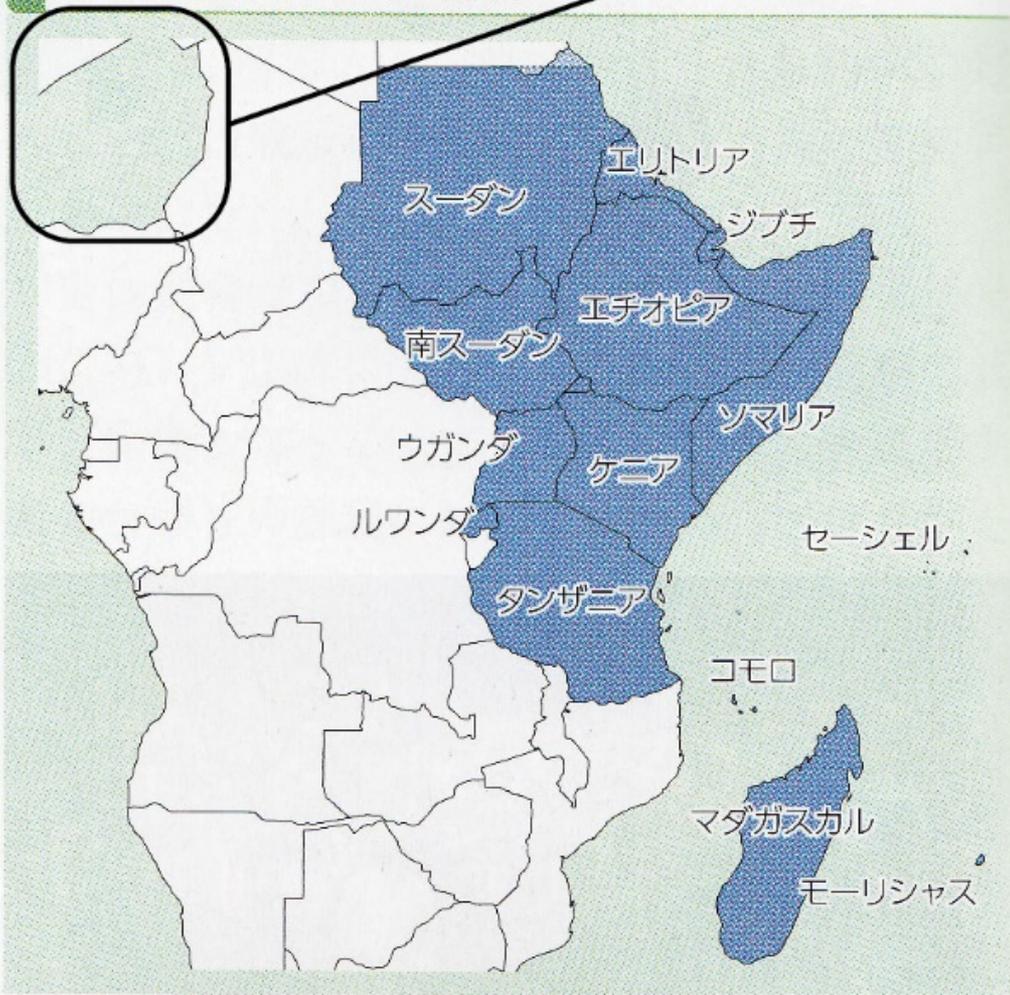
第 8 図 『外交青書 2017』 掲載の「シリア全図」と日本政府の立場との矛盾  
 ・『外交青書 2017』 104 頁の図に加筆。

※ゴラン高原を含むシリア領クナイトラ県が丸ごとイスラエル領になっている

日本政府は世界平和のためにもせめて高校レベルの世界地理を学んでほしい

(2) 東部アフリカ地域

ここに本来ならニジェールがある



第9図 ニジェールを「湖」にしてしまった地図

・『外交青書 2017』114 頁の図に加筆。

頼むから誰か校正段階で気づいて



問題になったHPの地図(その後修正)

- ◇ 菅義偉官房長官は27日午前の記者会見で、韓国の平昌(ピョンチャン)冬季五輪の公式ホームページ(HP)にある世界地図に日本列島の記載がないとして、韓国側に是正を申し入れたことを明らかにした。スポーツ庁から在京韓国大使館に早急な対応を要請した。(2017年9月28日日本経済新聞)

ぜひとも人のふり見て我がふりも見直してもらいたい

## 広報・出版

### 「2007日中文化・スポーツ交流年」

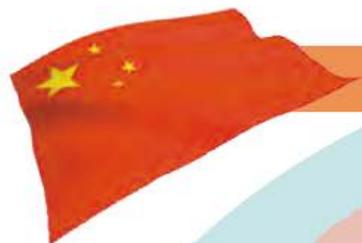


下記の目次部分をクリックしてPDF（Portable Document Format）形式で内容をご覧ください。

#### 目次

[▶ 全文（PDF）](#)  (22MB)

# 日中交流の現状



日本の17空港から  
中国の19空港へ  
直行定期便：週 **671** 往復

2006年は  
約 **470** 万人を超える往来  
(1日あたり約1.3万人強)

この辺の島々の  
塗りに注目

日→中の渡航者数  
2006年：約 **375** 万人

中→日の渡航者数  
2006年：約 **98** 万人

日→中の輸出額  
年間 **803.6** 億ドル

日本から見て  
**中国は第2位**の貿易相手国

中国から見て  
**日本は第3位**の貿易相手国

中→日の輸出額  
年間 **1090.2** 億ドル

(香港を含めれば日本から見て第1位の貿易相手国)  
(輸出入合計2272億ドル)

## ■年末年始 (2006-2007) の海外旅行

中国が第1位 (約9万人) の推計

(2位韓国8.4万人、3位欧州8万人、4位ハワイ6.2万人)

(JTBのプレスリリースより)

■中国における在留邦人数:114,899人 (05年、含香港)

→我が国の海外在留邦人数 (約101万人) の11.3%

■中国への進出企業数:35,124社 (05年末累計、中国側統計)

外務省『「2007日中文化・スポーツ交流年」パンフレット』:5頁(部分)

よりによって外務省がそれをやるか？

# 問題の所在

- ◇ 切りがないのでこの辺にするが、**とにかく酷い**。
- ◇ 管見では、2017年版の防衛白書で全掲載地図**56枚のうち28枚**、外交青書では**33枚中18枚**にどうしようもないレベル(外交問題になりかねない水準)の誤りが含まれていた〔詳細は拙稿〕。
- ◇ 政府の公的報告書である白書の地図がこれだけ質・量の面で酷いのは、一朝一夕に酷くなったのではなく、長い年月をかけて酷い地図が蓄積されていったものと考えるのが妥当。

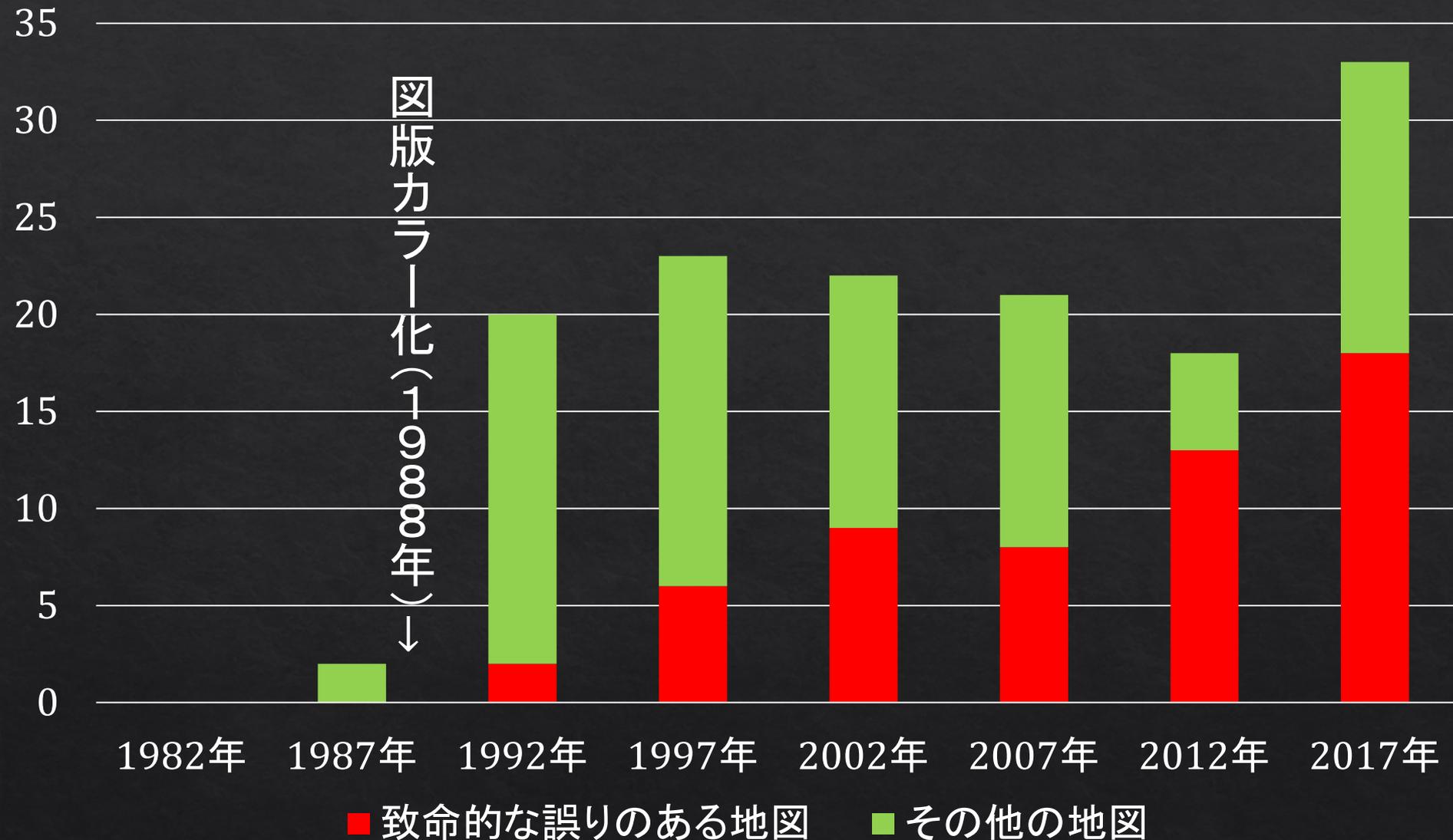
# 本報告の目的

- ◇ 代表的な日本政府の公式年次報告書であり、外交・防衛という職掌の性質上地図の役割が特に重要となる『外交青書』『防衛白書』の第1号から最新号までを材料に
- ◇ 掲載されている地図とその誤りの程度を経年的に明らかにし
- ◇ 長い年月を経て、なぜ、今日のここまで酷い白書が出来上がってしまったのかを検討する。

# I . 外交青書と地図図版

- ◆ 1957年に第1号が刊行(当初の名称は『わが外交の近況』)され、2017年版で60号になる。
- ◆ 当初はタテ書きだったが、1968年版から図版が載せやすいヨコ書き形式になった。
- ◆ 当初は地図が掲載されることはほとんどなく、**最初の地図図版の掲載は1973年版。**
- ◆ 図版が**カラー印刷化された1988年版以降**、地図の掲載が急増。

# 掲載地図の枚数(件)



## 図1 『外交青書』掲載地図数とその出来栄への推移

# 表1 2017年版『外交青書』掲載の致命的な誤りがある地図とその初出年一覧

地図名称	掲載頁	問題点・疑問点	初出
安倍総理大臣の外国訪問実績等	6	モンテネグロが描画されていない。スーダン-南スーダン間の国境線が実際と異なる。オデッサ州南部がウクライナから独立している。	2014
岸田外務大臣の外国訪問実績等	6	コソボとモンテネグロが描画されていない。スーダン-南スーダン間の国境線が実際と異なる。南樺太がロシア領になっている。カリーニングラード州がロシア領でなくなっている。北方領土の位置がおかしい。オデッサ州南部がウクライナから独立している。ヨーロッパトルコの範囲がトルコ領でなくなっている。	2014
新たな外交戦略:「自由で開かれたインド太平洋戦略」	16	南スーダンが描画されていない。サハリンが描画されていない。	2017
<b>アジア・大洋州</b>	18	コソボとモンテネグロが描画されていない。サハリン中部に国境線が描画されていない。	<b>2007</b>
<b>北米</b>	59	中国が描画されていない。	<b>2006</b>
日系企業による州別雇用創出及び州知事訪日歴	65	バンクーバー島がアメリカ領になっている。アレクサンダー諸島等がアメリカ領でなくなっている。投影法が変。海岸線と図枠線が同一で判別しにくい。距離尺が必要。	2017
<b>2016年の主な出来事(各国・地域別)</b>	76	バンクーバー島がアメリカ領になっている。フォークランド諸島が描画されていない。	<b>2007</b>
<b>欧州</b>	81	コソボとモンテネグロが描画されていない。	<b>2007</b>
その他の欧州地域	86-87	モナコ、アンドラ、リヒテンシュタイン、サンマリノが描画されていない。オデッサ州南部がウクライナから独立した国になっている。距離尺が必要。	2015
<b>中東と北アフリカ</b>	102	コソボとモンテネグロが描画されていない。	<b>2007</b>
シリア全図	104	ゴラン高原を含むクネイトラ県全域がイスラエル領になっている。距離尺が必要。	2017
東部アフリカ地域	114	ニジェールが消滅している。アラビア半島くらいは描画してもらいたい。距離尺が必要。	2017
米軍再編の全体像	131	択捉島が切断されている。距離尺が必要。	2011
日本の経済連携協定(EPA)の取組	197	南スーダン、コソボ、モンテネグロが描画されていない。	2010
投資関連協定の現状	199	コソボと南スーダンが描画されていない。ウラングリ島がロシア領でなくなっている。南樺太の範囲が狭い。海岸線の太さにばらつきがある。グリーンランドはデンマークと同じ色で描画するべきではないか。	2016
日本の租税条約ネットワーク	200	カリーニングラード州がロシア領でなくなっている。グリーンランドはデンマークと同じ色で描画するべきではないか。	2016
各地域の帰国留学生会員数	223	南スーダンが描画されていない。南極大陸が描画されていない。	2015
元JET参加者の会(JET Alumni Association)支部数及び会員数	223	南スーダンが描画されていない。南極大陸が描画されていない。	2015

# 外交青書の地図の誤りの特徴(1)

- ◆ 1990年代から一貫して誤りが増加傾向。
- ◆ 誤りを含んだ新しい地図が毎年一定数加わる一方で、前年も間違えていたものは翌年もほぼそのまま(訂正等なく)掲載され続ける(2017年版の場合致命的問題のある地図の平均掲載年数は4.3年)ので全体数が増える一方に。
- ◆ 長いものでは10年以上修正されることなく無批判に掲載し続けられている[例は次のスライド]。

第2節

北米



第2節

総論

(米国) 日米両国は、基本的価値及び戦略的利益を共有する同盟国である。日米同盟は、日本の外交・安全保障の基軸であり、アジア太平洋地域のみならず世界の安定と繁栄にも大きな役割を果たしている。

5月に、オバマ大統領は、米国の現職大統領として初めて広島を訪問した。この訪問は、戦犯追悼を促し、「核兵器のない世界」を目指す国際的務を再び盛り上げる上で、極めて重要な歴史的機会となり、同時に、戦後70余年の間遠き上げられてきた日米同盟、「希望の同盟」の強さを象徴するものになった(特集「オバマ米国大統領の広島訪問」14ページ参照)。

12月には、安倍総理大臣によるハワイ訪問が実施された。この訪問において、安倍総理大臣は、二度と戦争の惨憺を繰り返してはならないとの未来に向けた決意を新たにするとともに、かつて敵国として戦った日米両国を、戦後、価値を共有する同盟国へと変容させた日米の和解の力を世界に向けて力強く発信した(特集「安倍総理大臣のハワイ訪問」67ページ参照)。

2016年には、オバマ大統領による広島訪問、安倍総理大臣によるハワイ訪問に加え、G7伊勢志摩サミットにおける日米首脳会談、G7広島外相会合における日米外相会談など、日米要人間で緊密な意思疎通が行われた。こうした機会を通じて、日米両国は、日米同盟を一層強化す



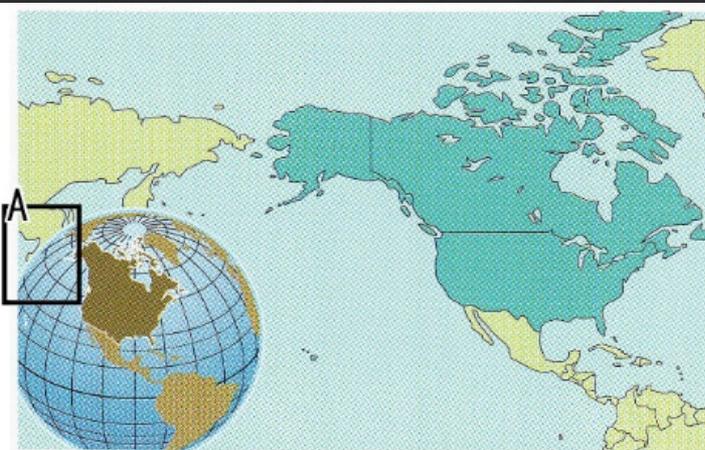
日米首脳会合のオバマ大統領と安倍総理大臣(2016年2月2日、米国・ハワイ 写真提供:内閣府提供)



トランプ大統領の広島を訪問する安倍総理大臣(2017年2月10日、米国・ワシントンDC 写真提供:内閣府提供)

せ、アジア太平洋地域での協力を踏めとして、気候変動、テロ対策といった地球規模の課題への対応においても緊密に協力し、国際社会の成長の課題に日米が連携して対処する姿を強く示した。

2017年1月、トランプ大統領は、第45代米国大統領に就任した。その直後の2月、安倍総



A ロシア極東付近拡大

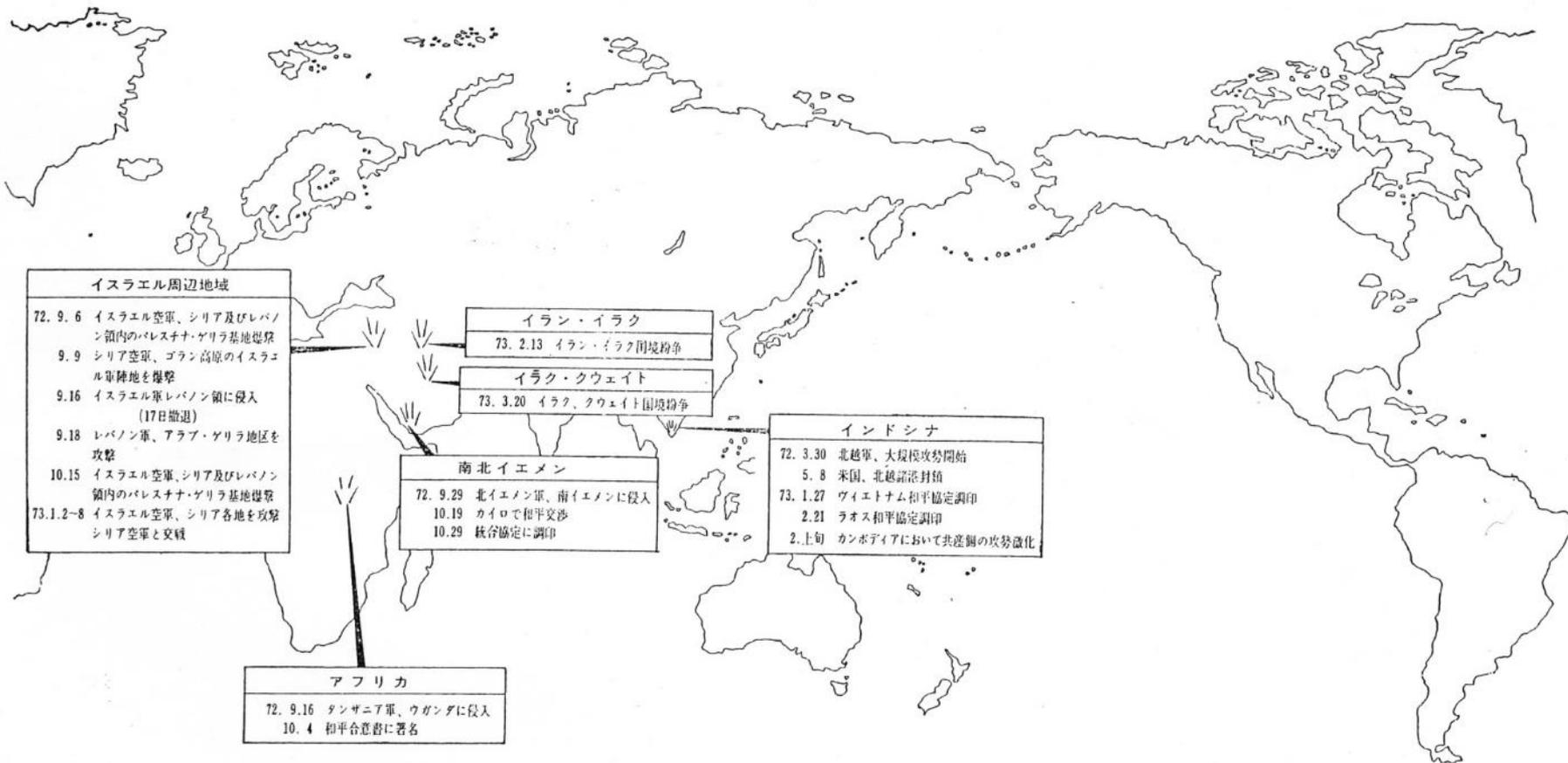
第2図 中国が抹消(海の色で描画)されている地図・『外交青書 2017』59頁の図に加筆。

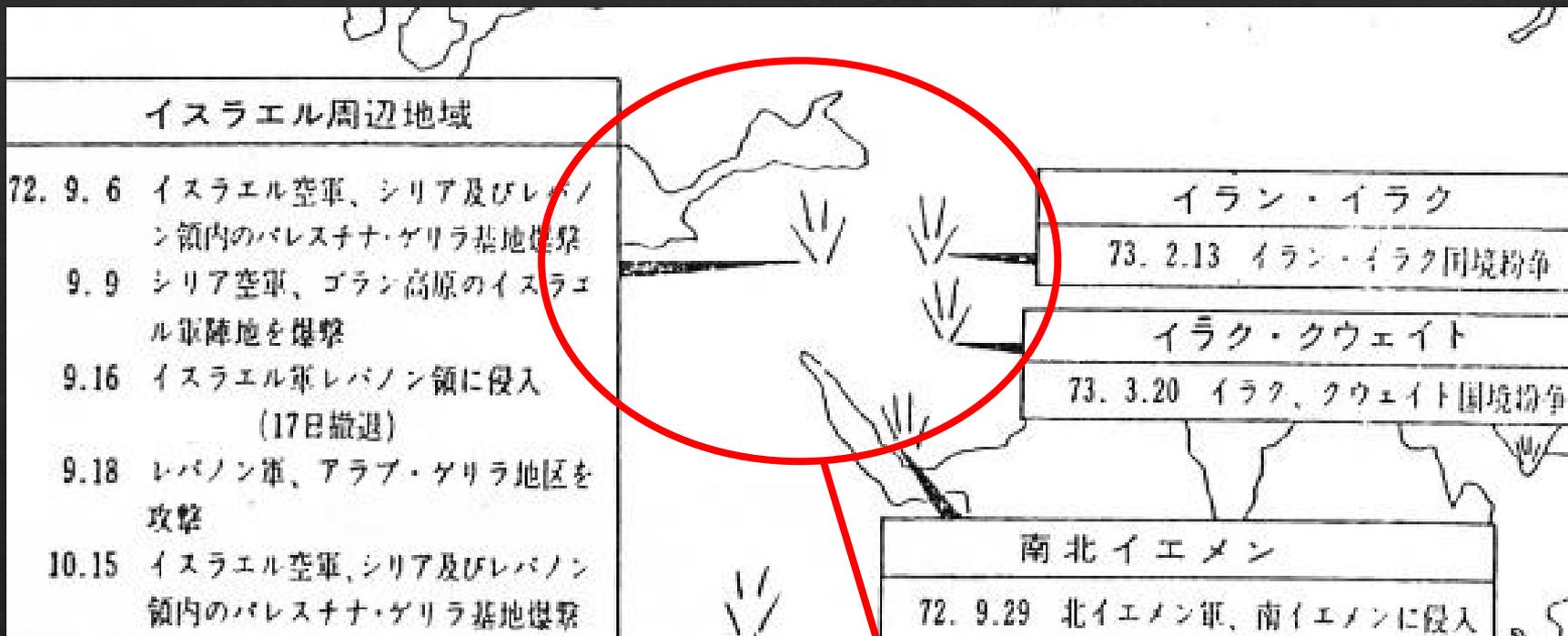
中国を地上から抹消してしまったこと自体は作図時にポリゴンの扱いを誤った単純なミスであり、殊更に責めるのは酷である。しかし、2006年版の青書から11年に渡って、中国が消された状態の全く同じ地図が使われ続けていることは、言い逃れできない問題だろう。

2017年版外交青書:59頁

青書を刊行する側に、毎年図版をチェックし、反省して改善しようとする意志がない証拠と捉えられるからである。

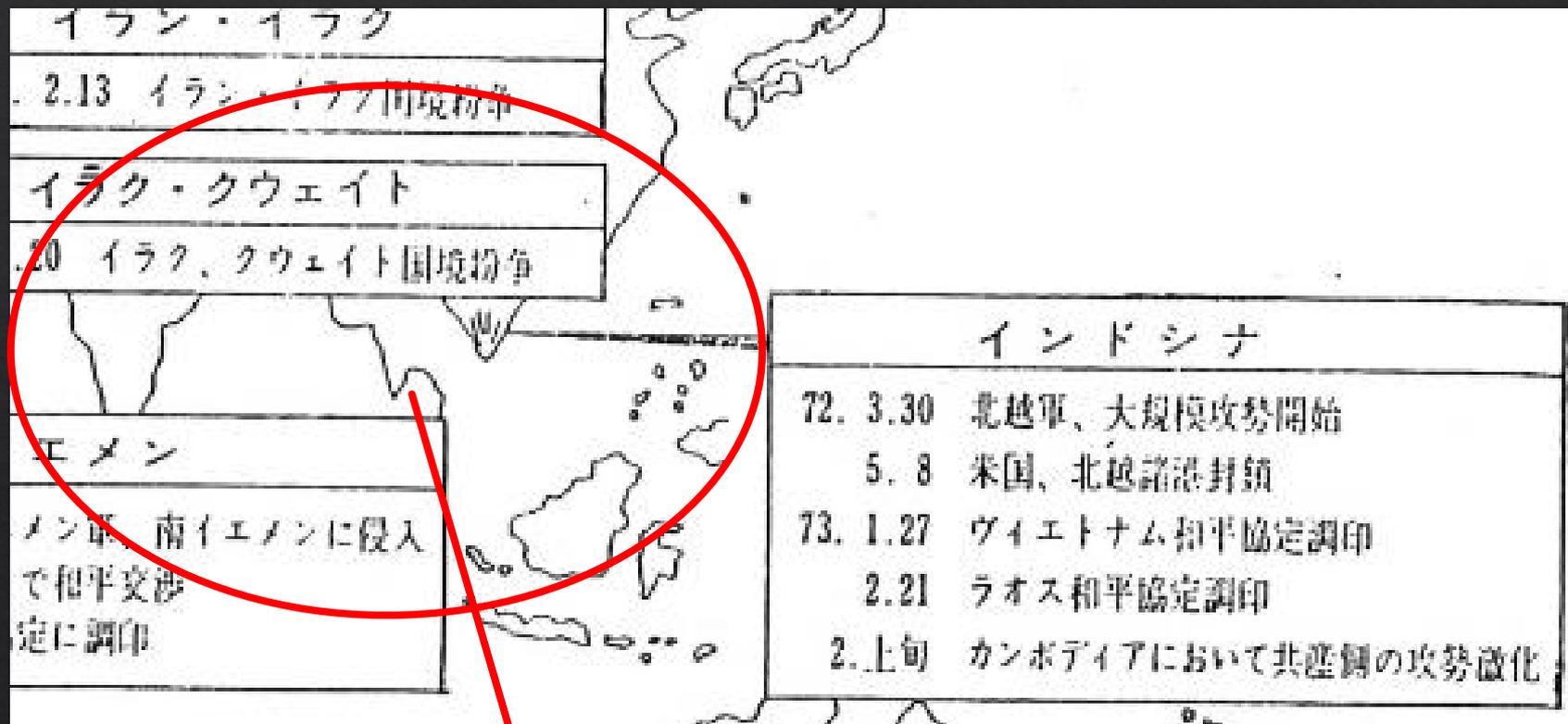
## (5) 1972年度における主要な武力紛争





(「1972年度における主要な武力紛争(部分)」1973年版外交青書:783頁)

いくら手描きの図だとしても、地図の主題上、ペルシャ湾や東地中海くらいは描画してもらいたかった。これだと**イスラエル**や**クウェイト**が**内陸国**になる。



(「1972年度における主要な武力紛争(部分)」1973年版外交青書:783頁)

海岸線が意味不明。マレー半島が一本の線に？  
手描きだとしても、小学生でももう少しマシなものを描ける。

1 アジア及び大洋州



拡大



2002年版外交青書:136頁(部分)

# 日本近海に「ムー大陸」出現！

ミスをしたこと自体よりも、章の扉絵かつ日本近海という条件にも関わらず、ミスを校正段階で誰も気が付かなかったという事実の方が恐ろしい。



カナダ領バンクス島



2002年版外交青書:148頁(部分)



2002年版外交青書:136頁(部分)

「ムー大陸」の正体はカナダのバンクス島と考えられる

2000年前後を境に、地図図版の作成は手描きからPC作図の時代に転換した。ポリゴン(島)のコピペのミス自体はよくあることなのだが、それにしても...

### 5 ロシア及び 旧ソ連新独立国家 (NIS) 諸国



### 2 北米



2002年版外交青書:148頁

今度はカナダ領ニューファンド  
ランド島らしきものが旧ソ連に

2002年版外交青書:167頁

PC作図においてポリゴンのコピペミスは付き物とはいえ、  
同じ青書で2回も犯し、なおかつ校正で修正できないのは  
到底**プロの仕事**とはいえない。

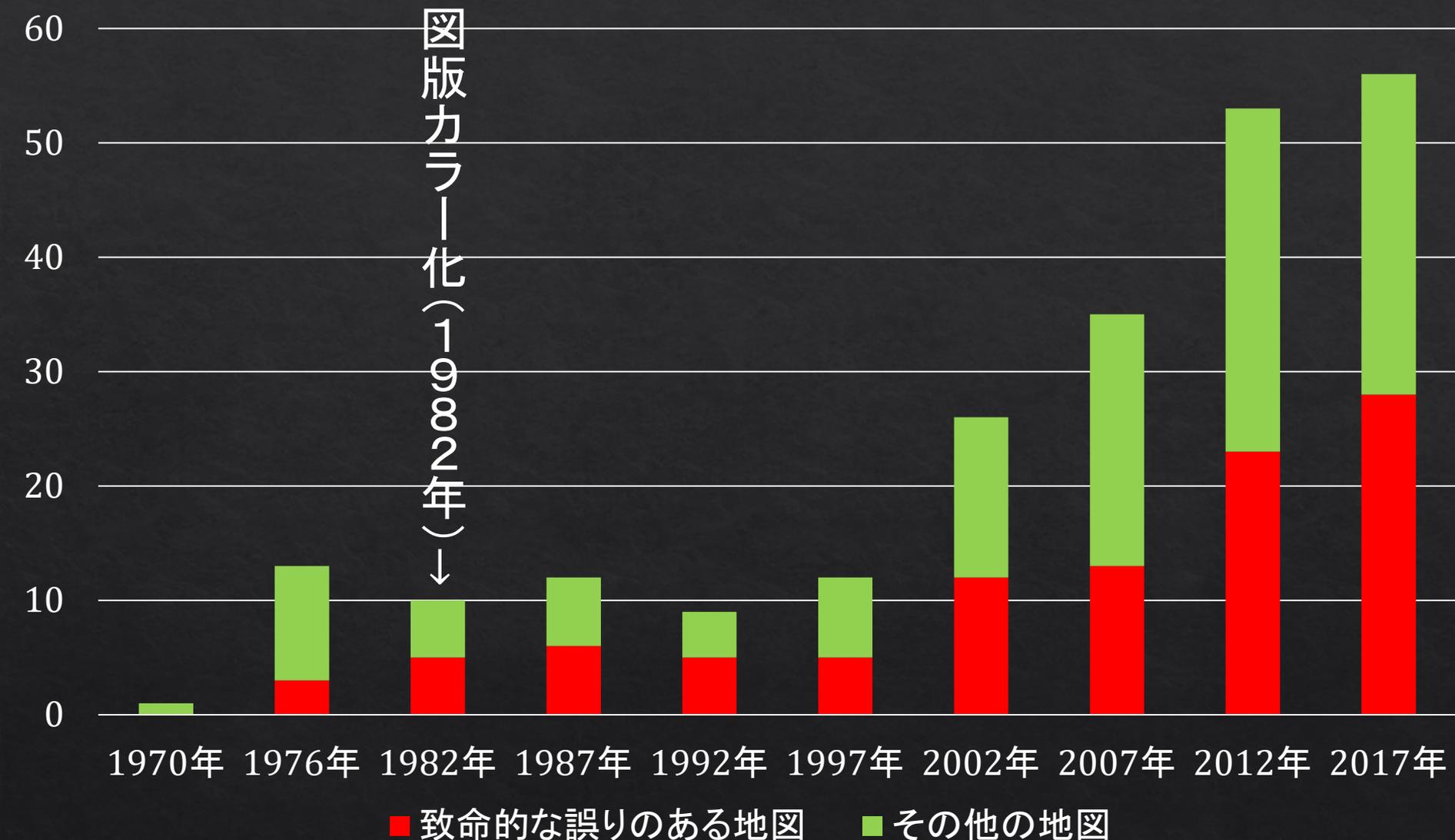
## 外交青書の地図の誤りの特徴(2)

- ◆ 地図の表現力は最初期から一貫してレベルが低く、全く成長しないし成長しようとする意志があるかすら疑問。
- ◆ そのくせ地図の図版枚数は増やしているので、レベルの低さが近年ほど強く可視化されるようになってきた(図版が多いので嫌でも目に付く)。
- ◆ 地図という表現媒体と、そこで表現されている世界の諸地域を心底舐め切っているのだと考えるをえない。
- ◆ 日本は平和である。

## Ⅱ．防衛白書と地図図版

- ◇ 1970年に第1号（当初の名称は『日本の防衛』）が刊行され、2017年版で43号になる。
- ◇ 第1号から地図図版が掲載されており、当初から地図を一定程度重視していたと考えられるが、1990年代までは毎号10枚前後の掲載で推移。
- ◇ 21世紀に入るところ（地図のデジタル化時代以降）から地図掲載数が急増。
- ◇ 「致命的な誤りのある地図」の掲載率はいつの時代も**50%程度**で推移。

# 掲載地図の枚数(件)



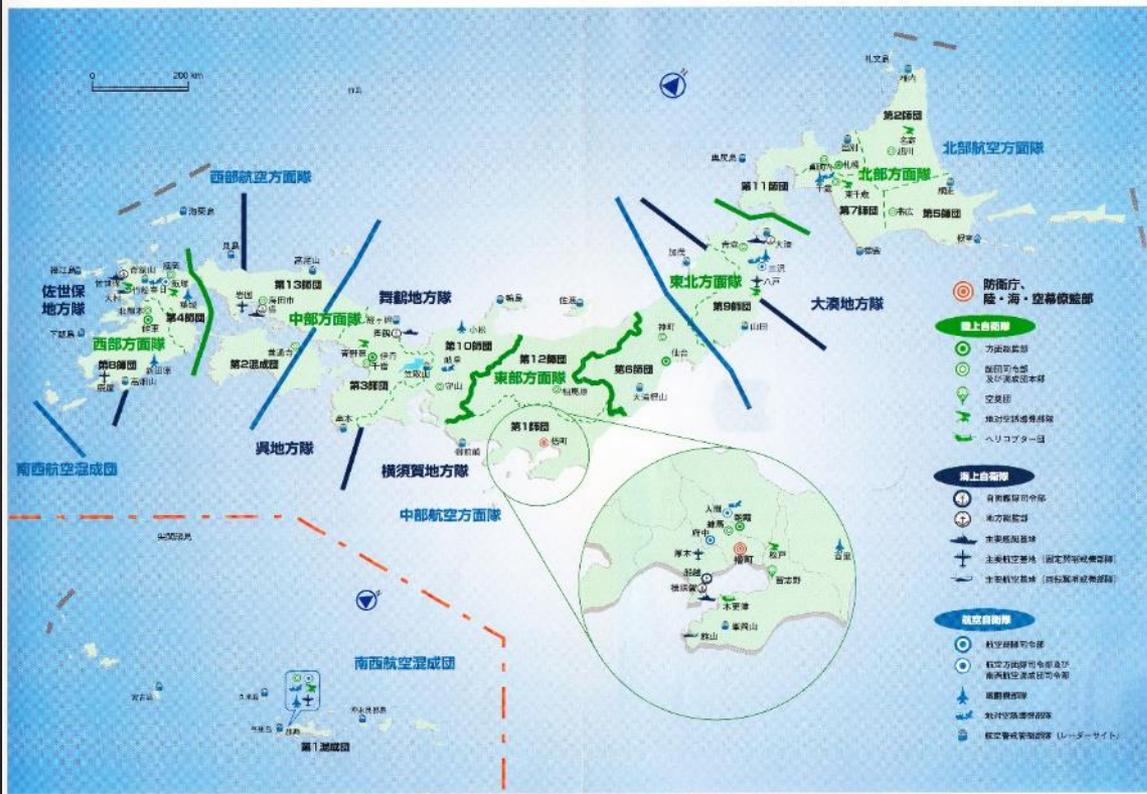
## 図2 『防衛白書』掲載地図数とその出来栄えの推移

# 表2 2017年版『防衛白書』掲載の致命的な誤りがある地図とその初出年一覧

地図名称	掲載頁	問題点・疑問点	初出
南スーダン派遣施設部隊の活動	8	南スーダンが独立していない。	2017
アジア太平洋地域における米軍の最近の動向	30	東ティモールが独立していない。香港が独立している。アメリカ-ロシア間の海上国境線があるのに日本と周辺国の海上国境線がない。サハリン中部に境界線が描画されていない。経緯度の表示が必要。	2012
南西諸島における主要部隊配置状況	44	尖閣諸島の位置を間違えている。距離尺が必要。	2017
ハイレベルの二国間会談・協議実績	47	サハリン南部がロシア領になっている。	2017
米軍の整備状況	78	東ティモール、モンテネグロ、コソボが独立していない。サハリン南部がロシア領になっている。アラル海が縮小前の状態。	2009
アジア太平洋地域における米軍の最近の動向	78	東ティモールが独立していない。香港が独立している。アメリカ-ロシア間の海上国境線があるのに日本と周辺国の海上国境線がない。サハリン中部に境界線が描画されていない。経緯度の表示が必要。	2012
<b>中国軍の配置と戦力</b>	114	南西諸島の形状が歪んでいる。先島諸島が台湾領になっている。陸地部分を切断する表現はおかしい。距離尺が必要。	<b>2006</b>
わが国周辺海域における最近の中国の活動のイメージ図	120	画質が荒すぎる。方位記号と距離尺が必要。	2009
わが国周辺空域における最近の中国の活動のイメージ図	123	画質が荒すぎる。沖縄、宮古島の位置を間違えている。方位記号と距離尺が必要。	2014
ロシア軍の配置と兵力	142	エカテリンブルクの位置が違う。経緯度の表示が必要。	2011
東南アジアと日中韓の兵力及び国防予算の比較	161	南スーダンが独立していない。南米の大部分とグリーンランド、アイスランド、南極が消滅している。サハリン中部に境界線が描画されていない。	2009
加盟国の拡大状況	180	ベルギーとキプロスがEUに加盟していない。距離尺が必要。	2014
国連平和維持活動一覧	188	チュコト半島が切断されている。	2009
<b>沖縄における再編</b>	309	沖縄の形状が歪んでいる。	<b>2006</b>
<b>航空機の移駐など</b>	310	フィリピンやカリマンタン島が消滅している。距離尺が必要。	<b>2007</b>
沖縄の地政学的位置と在沖米海兵隊の意義・役割	311	カリマンタン島が消滅している。	2011
沖縄本土復帰後最大の返還	312	沖縄の形状が歪んでいる。距離尺が必要。	2017
代替施設と普天間飛行場の比較	314	沖縄の形状が歪んでいる。描画されている島が少なく位置もおかしい。	2017
オスプレイの有用性	322	対馬と択捉島、福岡、鹿児島島の位置を間違え、得撫島を日本領にしている。南西諸島が異様に太っている。サイパン、グアム、ソウル、上海の位置を間違えている。ロシア沿海州、サハリンの形状が歪み、位置が違う。方位記号が必要。	2016
わが国及び周辺国の防空識別圏	341	得撫島が消滅している。距離尺が必要。	2014
南西諸島における主要部隊配置状況	345	尖閣諸島の位置を間違えている。距離尺が必要。	2017
航続距離の比較	347	距離測定が誤っている。	2017
宇宙利用のイメージ	355	北方領土が日本領でなくなっている。	2017
防衛省・自衛隊におけるサイバー攻撃対処のための総合的施策	358	対馬西方に謎の島が描画されている。	2017
防衛駐在官派遣状況	370	モンテネグロ、コソボが独立していない。チュコト半島が独立している。南極大陸が消滅している。ハワイの位置が違う。サハリン南部がロシア領になっている。	2017
ハイレベルの交流実績	372	カーリーニングラード州がロシアから独立している。サハリン南部がロシア領になっている。バイカル湖やバルハシ湖が塗られていない。アラル海が縮小前の状態。	2014
南スーダン周辺図	407	モンテネグロ、コソボが独立していない。アフリカの形状が歪んでいる。距離尺が必要。	2014
<b>主要部隊などの所在地</b>	巻末	竹島と尖閣諸島の位置を間違えている。福岡、旭川、名寄の位置が違う。海上国境線を引くのならサハリンや朝鮮半島も描画するべき。	<b>1997</b>

# 防衛白書の地図の誤りの特徴(1)

- ◇ 2000年代から一貫して誤りが増加傾向。
- ◇ 誤りを含んだ新しい地図が毎年一定数加わる一方で、前年も間違えていたものは翌年もほぼそのまま(訂正等なく)掲載され続ける(2017年版の場合致命的問題のある地図の平均掲載年数は4.4年)ので全体数が増える一方に。
- ◇ 長いものでは20年間修正されることなく無批判に掲載し続けられている〔例は次のスライド〕。



(参考)2017年版防衛白書

←1997年版防衛白書巻末掲載地図



地図の色遣いは変わったが、竹島と尖閣諸島の位置の間違いはこの20年間全く変わらず。防衛省にとっては国境の島々など「どうでもいい存在」なのだろう。

## 2 沖縄における再編

### 【共同使用】

陸上自衛隊の訓練のため、キャンプ・ハンセンを使用。施設整備を要しない本共同使用は、平成18年から可能

航空自衛隊は、地元への騒音の影響を考慮しつつ、米軍との共同訓練のために、嘉手納基地を使用

### 【土地の返還】

- 沖縄に残る施設・区域の統合による、嘉手納飛行場以南の相当規模の土地の返還
- 返還時期及び機能移転先等の詳細な計画を、2007年3月までに作成

陸軍貯油施設（第1桑江タンクファーム地区）  
（全面返還 約16ha）

牧港補給地区（キンザー）  
（全面返還 約274ha）

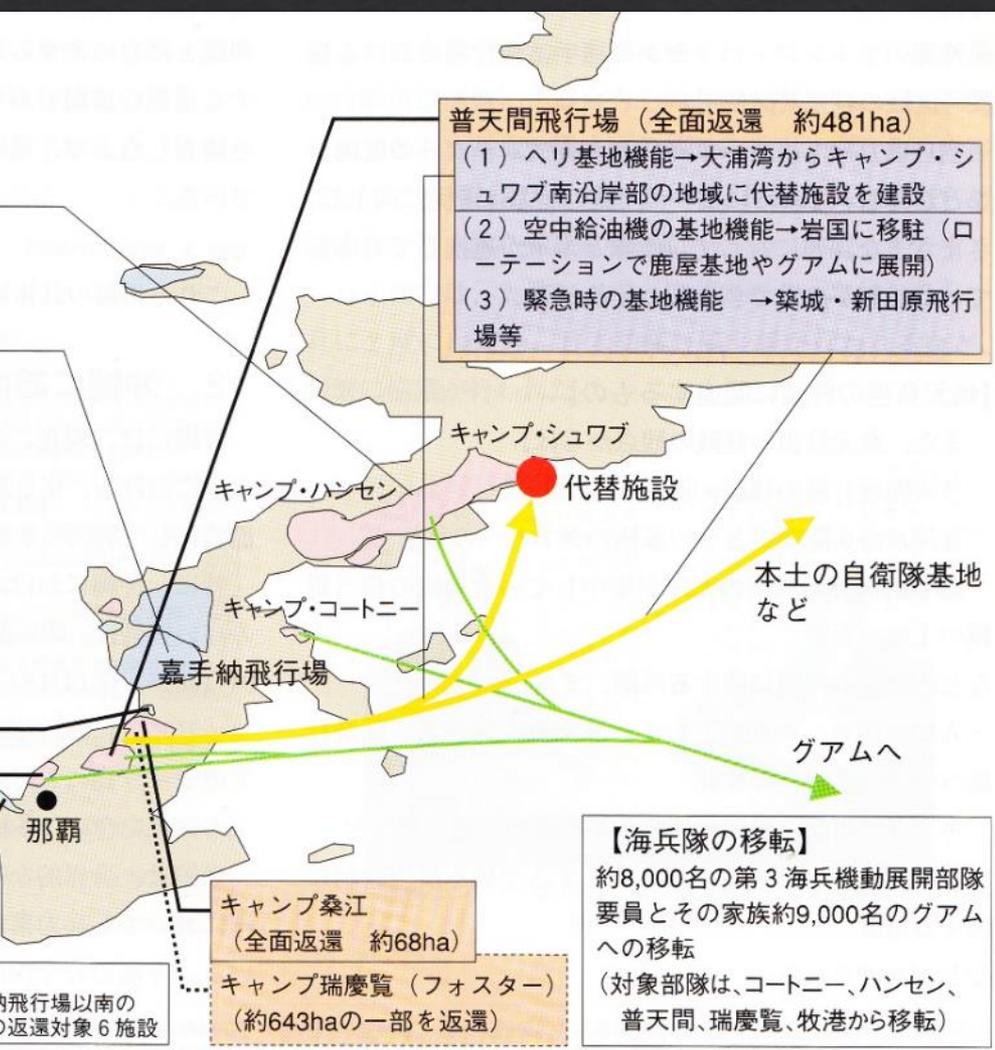
那覇港湾施設  
（全面返還 約56ha）

### 【凡例】

嘉手納飛行場以南の土地の返還対象6施設

普天間飛行場（全面返還 約481ha）

- (1) ヘリ基地機能→大浦湾からキャンプ・シュワブ南沿岸部の地域に代替施設を建設
- (2) 空中給油機の基地機能→岩国に移駐（ローテーションで鹿屋基地やグアムに展開）
- (3) 緊急時の基地機能 →築城・新田原飛行場等

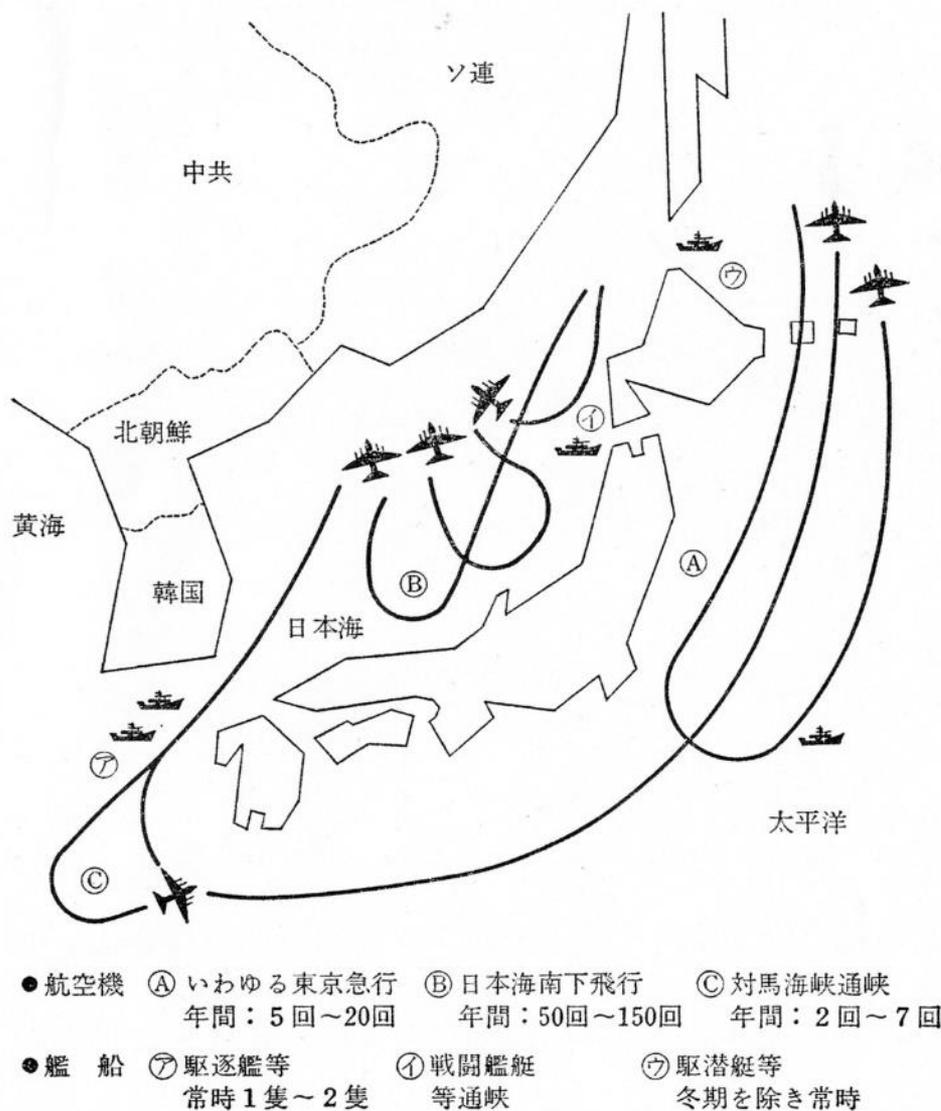


### 【海兵隊の移転】

約8,000名の第3海兵機動展開部隊要員とその家族約9,000名のグアムへの移転  
（対象部隊は、コートニー、ハンセン、普天間、瑞慶覧、牧港から移転）

10年以上、沖縄本島の形が歪んだまま。そりゃ知事も怒る。

別表第6 国籍不明の航空機または艦船の日本周辺進出状況



この図は模式図といえるので、海岸線等の表現が稚拙であっても致命的な問題にならない。問題は、この程度の画力で、他の緻密さが要求される地図を描き続けてきた点にある。

## 防衛白書の地図の誤りの特徴(2)

- ◆ 地図の表現力は最初期から一貫してレベルが低く、全く成長しないし成長しようとする意志があるかすら疑問。
- ◆ そのくせ地図の図版枚数は近年急速に増やしているので、レベルの低さが近年ほど強く可視化されるようになってきた(図版が多いので嫌でも目に付く)。
- ◆ 地図という表現媒体と読者を心底舐め切っていると断じざるをえない。
- ◆ 日本は平和である。

# まとめ

- ◆ 目的：長い年月を経て、なぜ、今日のここまで酷い白書が出来上がってしまうに至ったのかを検討する。
- ◆ 結果：地図の表現技術はもともと低かった。その技術水準のまま地図の枚数だけ増やし続けた。地図に誤りがあってもそれをチェックすることも翌年以降の版で改善することもなく、その蓄積の帰結として、珍妙な地図が大量掲載される今日の白書・青書が出来上がった。

# まとめ

公的機関のウェブサイトなどにはしばしば不適切な地図が掲載される。(中略)要は、地図に対する関心、配慮が無く、出来上がった地図をチェックする体制もないのだろう。日本の公的機関の地図リテラシーの問題点を世界に発信し続けているという点では、反面教師的な意味があると言えようか。

田代博(2016)より

- ◇ この指摘は全くその通りだと言わざるをえない。でも、もうそろそろやめにしませんか。賢くなりませんか。せめて「やる気」を出しませんか？

# まとめ

- ◇ ミスは誰にでもある。しかし、「ミス<sup>を</sup>最小限にしようと努力<sup>しない</sup>」こと「ミス<sup>を</sup>リカバリーし今後<sup>に</sup>生かそうとしない」こと「そもそもミス<sup>に</sup>気が付いていない」ことは、国民の信託を受けて国民を防護し、国際社会に参加するという光栄を担う立場の組織として論外というべきだろう。
- ◇ 業務上白書を毎号熱心に読んでいるであろう政府関係者や政治家・研究者が声を上げてこなかったことも問題。そもそも、彼らは白書を「読んでいるのか」？それとも「読んだけど見逃してしまった」のか？前者なら怠慢、後者なら無能。

# おわりに:もう少しマシな白書へ

- ◇ **政府は無謬ではない**ことを自覚し、ミスをチェックする体制の構築を。
- ◇ 「去年通用したんだからいいだろう」という甘えた姿勢を改め、毎年前年度の出版内容を精査し、前年の反省を踏まえて翌年はよりよいものを国民に示そうとする、**人間らしい克己心**を持とう。
- ◇ 地図を軽視しているのならそもそも地図を載せるな。載せる以上は**プロにふさわしい仕事**を。
- ◇ 政治家はじめ関係者は**白書をちゃんと読むこと**。
- ◇ 社会全体として**地図にもう少し関心と知識**を。

# 追記

- ◇ 2018年の『外交青書』が刊行された。最速で取り寄せを手配したが本発表には間に合わなかった。2018年版の地図は、前年までの反省を踏まえたものになっていることを期待したい(表紙の世界地図にノヴァヤゼムリャやキューバ島が見当たらない時点で既に嫌な予感がするが・・・)。



外交青書 第61号 (平成30年版)  
平成29年の国際情勢と日本外交  
日経印刷 全国官報販売協同組合 東京官書普及  
外務省

価格 2,160円 (本体2,000円+税)  
発行年月 2018年06月  
判型 B 5  
ISBN 9784865791228

在庫状況：出版社よりお取り寄せ (通常3日~20日で出荷)

[🛒 買い物かごに入れる](#)  点

[⊕ 欲しいもののリストに追加](#)

(Honya Clubホームページより)

# 2018年7月13日追記

- ◇ ようやく2018年版の『外交青書』(外務省編(2018)『外交青書2018』日経印刷)が手元に届いたので掲載地図をみてみた。
- ◇ 暫定で総掲載地図26枚中15枚にどうしようもない誤りがあった。致命的な誤りのある地図は2017年版の18枚から15枚に減ったが、比率は上昇している。
- ◇ 2018年版では、「水没していたニジェール」(スライド13)は浮上」(2018年版青書118頁)し、「アメリカ領になっていたバンクーバー島はカナダに返還された」(2018年版青書72頁)など、改善もみられた。また、「10年以上も中国が消滅していたままになっていた地図」(スライド23)は、地図自体がなくなった。
- ◇ しかし、新たに「グリーンランドとアイスランドをカナダ領にしてしまった」(2018年版青書75頁)、「ハワイが独立した」(2018年版青書6頁)ような豪快な誤りも出現したため、結局根本的に地図の扱いに問題があることに関しては、本年も何の変化もないというのが妥当だろう。

## 参考・引用文献

- 外務省編(1973)『わが外交の近況—外交青書—』外務省 (<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/bluebook/1973/s48-contents.htm>)
- 外務省編(2002)『外交青書(平成14年版)』財務省印刷局 (<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/bluebook/2002/index.html>)
- 外務省編(2007)『2007日中文化・スポーツ交流年—期待を未来につなげよう。—』外務省 ([http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/pr/pub/pamph/j\\_c\\_sports.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/pr/pub/pamph/j_c_sports.html))
- 外務省編(2017)『外交青書2017(平成29年版)』日経印刷 (<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/bluebook/2017/html/index.html>)
- 近藤暁夫(2018a)「掲載地図の誤りにみる『防衛白書』の資料的価値と防衛省の地理的知識—『平成29年版 日本の防衛—防衛白書—』を中心に—」愛大史学26:75-112頁 ([https://aichiu.repo.nii.ac.jp/?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=9208&item\\_no=1&page\\_id=13&block\\_id=17](https://aichiu.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=9208&item_no=1&page_id=13&block_id=17))
- 近藤暁夫(2018b)「掲載地図と本文の矛盾からみた日本国『外交青書』の資料的価値—『外交青書2017』を中心に—」文學論叢155:65-84頁
- 田代博(2006)「『防衛白書』の地図は問題だらけ」田代博のホームページ (<http://yamao.lolipop.jp/map/map029.htm>)
- 田代博(2016)「いま、地図投影法を考える」地理61-11:34-48頁
- 帝国書院編集部編(2017)『新詳高等地図』帝国書院
- 防衛省編(2017)『防衛白書—日本の防衛—』日経印刷 ([http://www.clearing.mod.go.jp/hakusho\\_data/2017/w2017\\_00.html](http://www.clearing.mod.go.jp/hakusho_data/2017/w2017_00.html))
- 防衛庁編(1970)『日本の防衛』防衛庁 ([http://www.clearing.mod.go.jp/hakusho\\_data/1970/w1970\\_00.html](http://www.clearing.mod.go.jp/hakusho_data/1970/w1970_00.html))
- 防衛庁編(1997)『日本の防衛』防衛庁 ([http://www.clearing.mod.go.jp/hakusho\\_data/1997/index.html](http://www.clearing.mod.go.jp/hakusho_data/1997/index.html))
- 防衛庁編(2006)『日本の防衛:防衛白書—未来に向けた確かな安全保障のために—』ぎょうせい ([http://www.clearing.mod.go.jp/hakusho\\_data/2006/w2006\\_00.html](http://www.clearing.mod.go.jp/hakusho_data/2006/w2006_00.html))